

**南宇都宮駅が夏バージョンのフラワーアレンジメントと
【BUJI KAERU】大谷石のカエルの置物とミューラルアートでお出迎え
(歴史と趣のある駅舎に 植物×アートの力をプラス)**

東武鉄道（本社：東京都墨田区、取締役社長：都筑 豊）と東武緑地株式会社（本社：東京都墨田区、代表取締役社長：青木 雅彦）では、東武宇都宮線南宇都宮駅において「地域と駅をつなぐ」をコンセプトとして、本年1月より花の装飾とミューラルアート（窓ガラスに絵を描くアート）を実施しています。

今回、新たに夏バージョンの花装飾に加え、宇都宮市大谷地区では家族の無事の帰宅を祈念し大谷石彫のカエルの置物を玄関先に飾る風習があることから、栃木県伝統工芸士の渡邊哲夫氏、地元アーティストもときみちこ氏による「BUJI KAERU（無事帰る）」をコンセプトにした大谷石のカエルとミューラルアートがお目見えしました。

本取り組みについては、これからも継続的に取り組んでいくものとし沿線にたくさんの花を咲かせ、宇都宮線の観光名所としての創出等、沿線価値の向上に繋げてまいります。

詳細は別紙のとおりです。



△大谷石のカエルの置物、植物とミューラルアートで装飾された南宇都宮駅

東武宇都宮線 南宇都宮駅構内の装飾について

南宇都宮駅は、地元宇都宮市大谷町で産出される石材大谷石を使った駅舎として、開業以来およそ 90 年にわたり地域のシンボルとして親しまれてきました。このモダンな駅舎を四季折々のフラワーアレンジメントで趣のある街並みや景観を意識したデザインと、ドライフラワーやフェイクフラワーを取り入れ 2025 年の四季を彩ります。

この夏は、栃木県の伝統工芸士の渡邊哲夫氏、地元アーティストもときみちこ氏協力のもと宇都宮文化会館の最寄駅であることにちなみ、指揮者に扮した大谷石のカエルが登場し、ミューラルアートも新しくなりました。

タクトを向日葵に持ち替えた<BUJI KAERU>は暑い夏を安全に過ごせるよう地域の皆様を見守ります。



Profile

渡邊 哲夫

宇都宮市在住 1955 年、宇都宮市生まれ。

栃木県内の高校を卒業後、中央工学校で建設設計を学ぶ。

卒業後、一時はプロの音楽家を志すが断念。

帰郷後、大谷石職人である父・渡邊徳重氏、鈴木西州氏のもとで大谷石を彫り始める。

フランク・ロイド・ライトの帝国ホテルを通じて知った大谷石の魅力を広めたいと、現在は大谷石のさらなる可能性と新たな表現方法を模索しつつ、様々なシーンでのプロデュース活動にも力を入れている。



Profile

もとき みちこ

宇都宮市在住

絵描き・グラフィックデザイナー・ペインター

文星短期大学グラフィックデザイン科を卒業後

デザイン会社・企業広報・広告代理店にてチーフデザイナー・アートディレクターを経て 2016 年フリーランスに。

ミューラルウインドウペイント ワークショップ

講師業と幅広く活動中。

(南宇都宮駅について)

南宇都宮駅は 1932 年(昭和 7 年)4 月 17 日に開業し、2020 年に駅舎リニューアル工事を実施しました。

修復にあたり開業当時からある縦貼り・横張りの大谷石、縦長の三連窓、出入口上部の欄間、待合室内の格天井、庇の持ち送り等は補修により保存しつつ、新たに大谷石の壁面を増設し、全体のデザインを統一しました。青緑色の洋風瓦は、釉薬(ゆうやく)の調合と試し焼きを繰り返し、同駅新築時の色合いを再現すると共に、待合室内装等の塗装面は塗膜を調査・分析し、開業当初の塗装色に塗り直しています。また、特徴的な破風板は、宇都宮市宮原球場の最寄駅であることに由来するバットとボールを模した開業当初のデザインに修復しました。

以 上